

# 福 祉

## 1 学習指導の改善・充実

### (1) 学習評価の改善の基本的な考え方

各教科等の評価については、「観点別学習状況の評価」と「評定」が学習指導要領に定める目標に準拠した評価として実施するものとされている。観点別学習状況の評価とは、学校における生徒の学習状況を、複数の観点から、それぞれの観点ごとに分析的に捉える評価のことである。生徒が各教科等での学習において、どの観点で望ましい学習状況が認められ、どの観点到課題が認められるかを明らかにすることにより、具体的な指導や学習の改善に生かすことを可能とするものである。各学校において目標に準拠した観点別学習状況の評価を行うに当たっては、観点ごとに評価規準を定める必要がある。

改訂された学習指導要領では、各教科等の目標や内容を「知識及び技術」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の三つの柱で再整理しており、このことを踏まえ、観点別学習状況の評価については、「知識・技術」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価すると整理している。

また、「主体的に学習に取り組む態度」として観点別学習状況の評価を通じて見取ることができる部分と、観点別学習状況の評価や評定にはなじまず、こうした評価では示しきれないため、個人内評価を通じて見取る部分があることに留意する必要がある。

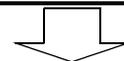
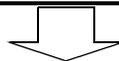
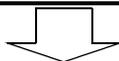
なお、バランスのとれた学習評価を行うためには、ペーパーテストだけではなく、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い等の多様な活動を取り入れることや、それらを集めたポートフォリオを活用することなどについて考える必要がある。

### (2) 評価の観点及びその趣旨

教科及び科目の目標については、産業界で必要とされる資質・能力を見据えて三つの柱に沿って整理された。評価規準の作成に当たっては、目標に準拠した評価を行うため「評価の観点及びその趣旨」が、次に示すように各教科の目標を踏まえて作成されていることを確認する必要がある。

#### 【高等学校学習指導要領 第3章 第8節 福祉「第1款 目標」】

知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
福祉の各分野について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。	職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。



#### 【改善等通知 別紙5 各教科等の評価の観点及びその趣旨〈福祉〉】

観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	福祉の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	よりよい社会の構築を目指して自ら学び福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

### (3) 評価規準の設定

教科の目標と「評価の観点及びその趣旨」との関係性を踏まえ、科目の目標に対する「評価の観点及びその趣旨」を作成した上で、「〔指導項目〕ごとの評価規準」を作成する。

「〔指導項目〕ごとの評価規準」を作成する際のポイントは、以下のとおり。

「知識・技術」のポイント	「思考・判断・表現」のポイント	「主体的に取り組む態度」のポイント
知識については「…理解する」の記述を、技術については「…身に付ける」の記述を当てはめ、それらを生徒が「…理解している」「…身に付けている」かどうかの学習状況として表す。	「…発見し、解決する」の記述を当てはめ、それらを生徒が「…発見し、解決している」かどうかの学習状況として表す。	「…自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む」の記述を当てはめ、それらを生徒が「…自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる」かどうかの学習状況として表す。

作成した「〔指導項目〕ごとの評価規準」をもとに、具体的な学習活動から目指すべき学習状況としての生徒の姿を想定し、単元の目標及び単元の評価規準を作成する。

「単元の評価規準」を作成する際のポイントは、以下のとおり。

「知識・技術」のポイント	「思考・判断・表現」のポイント	「主体的に取り組む態度」のポイント
学習の過程を通じた知識及び技術の習得状況について評価を行うとともに、それらを既有的知識及び技術と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技術を習得したりしているかについて評価する。	知識及び技術を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかを評価する。	単に継続的な行動や積極的な発言を行う等、性格や行動面の傾向を評価するのではなく、知識・技術を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意志的な側面を評価する。

### (4) 観点別学習状況の評価の実施上の留意点

観点別学習状況の評価を実施するに当たり、まずは年間の指導と評価の計画を確認した上で、学習指導要領の目標や内容、「〔指導項目〕ごとの評価規準」の考え方等を踏まえることが大切である。

なお、観点別学習状況の評価は、毎回の授業ではなく原則として単元や題材など内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、その場면을精選して実施し、日々の授業の中で生徒の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことに重点を置くことが重要である。

### (5) 観点別学習状況の総括の進め方

適切な評価の計画の下に得た、生徒の観点別学習状況の評価に係る記録の総括の時期としては、単元（題材）末、学期末、学年末等の節目が考えられる。

ここでは、単元における総括を想定し、評価結果を数値化して総括する方法の例を示す。

	知識・技術		思考・判断・表現				主体的に学習に取り組む態度		
	ワークシート	テスト	観察	発表	ワークシート	テスト	観察	発表	ワークシート
1・2時間目			B (2)		B (2)		A (3)	A (3)	B (2)
3時間目	B (2)		A (3)		A (3)	B (2)	B (2)	B (2)	
4時間目	A (3)	B (2)	A (3)		A (3)	B (2)			
5時間目	B (2)	B (2)							
6・7時間目	B (2)	A (3)	A (3)	B (2)	A (3)				
総括	B (2.28)		A (2.54)				B (2.40)		

A = 3点、B = 2点、C = 1点として数値化し、各観点別の合計点を各基準の数で除した数値の平均値で示す。平均値2.5以上がA、2.0以上2.5未満がB、2.0未満がCとして評価する。

また、観点別学習状況の評価の評定への総括は、各観点の評価結果をA、B、Cの組合せ、又は、A、B、Cの数値で表したものに基づいて総括し、その結果を5段階で表す。

**< A、B、Cの組合せから評定に総括する場合の例 >**

組合せ	評定
「AAA」	5
「AAB」及び「ABB」	4
「BBB」及び「ABC」	3
「BBC」及び「BCC」	2
「CCC」	1

**< A、B、Cを数値に置き換えて総括する場合の例 >**  
 ※A=3点、B=2点、C=1点に置き換える。

合計点	評定
9点	5
8または7点	4
6または5点	3
4点	2
3点	1

## 2 新学習指導要領における指導と評価の計画例

ここでは、科目「社会福祉基礎」における〔指導項目〕「(4)生活を支える社会保障制度 エ 高齢者福祉と介護保険制度」の評価規準及び指導と評価の計画を例示する。本単元では、高齢者福祉と介護保険制度に関わる知識及び技術を身に付けるとともに、自らが居住する地域や生活と関連付けながら現状に関する課題を発見し、解決の方向性を考え行動することから、社会福祉に必要な資源の創造に主体的に取り組む態度を育成することをねらいとしている。

### (1) 単元の目標

- ア 高齢者福祉と介護保険制度の概要と現状について理解するとともに、関連する技術を身に付ける。
- イ 高齢者福祉と介護保険制度の現状に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的根拠に基づいて創造的に解決する。
- ウ 高齢者福祉と介護保険制度を地域や生活と関連させて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。

### (2) 単元の評価規準（1 (3) 評価規準の設定を参照）

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
高齢者福祉と介護保険制度の概要と現状について理解しているとともに、 <u>関連する技術を身に付けている。</u>	高齢者福祉と介護保険制度の現状に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的根拠に基づいて創造的に解決している。	高齢者福祉と介護保険制度を地域や生活と関連させて自ら学び、主体的かつ協働的に <u>取り組もうとしている。</u>

### (3) 指導と評価の計画（16時間）

ア 社会保障制度の意義と役割	5時間
イ 生活支援のための公的扶助	7時間
ウ 児童家庭福祉と社会福祉サービス	4時間
<b>エ 高齢者福祉と介護保険制度</b>	<b>16時間</b>
オ 障害者福祉と障害者総合支援制度	7時間
カ 介護実践に関連する諸制度	4時間

○…「評定に用いる評価」

●…「学習改善につなげる評価」

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	評価方法
1	(1) 日本が直面する人口構造の高齢化と高齢者の生きがいと健康づくりに向けて 〔ねらい〕 日本の高齢化の実態と課題、高齢者にとって社会参加と健康が重要なことを理解し、自らの地域の現状について考える。			
2	①【ゲストスピーカー：介護支援専門員】 地域の高齢化の現状と介護予防に関する取組を聞き取る。 ②ゲストスピーカーから例示された事例をもとに「高校生が考える健康づくりの企画」を提案する。	主 思	● ○	【ワークシート】 【発表】
3	(2) 介護保険制度 〔ねらい〕 介護保険制度の目的と内容について理解する。			
	①介護保険制度の目的と内容について理解する。	知	○	【ワークシート】
4	(3) 介護保険制度のサービス 〔ねらい〕 在宅サービス、地域密着型サービスの概要を理解し、意義や今後の役割を考える。			
5	①介護保険制度のサービスの概要を理解する。 ②事例に対する適切なサービスについて考える。	知 思	● ○	【ワークシート】 【発表】
6	(4) 介護保険施設、老人保健施設と高齢者向け住宅 〔ねらい〕 各施設の概要を理解する。			
9	①各施設の概要を理解する。 ②【フィールドワーク：各施設】※写真や動画を撮影する。 小グループに割り当てられた各施設を見学し、各施設の特徴を踏まえた施設の紹介を発表する。 ③地域の方に向けた各施設の紹介動画を作成する。	知 思 主	● ○ ○	【ワークシート】 【発表】 ICT活用 【振り返りシート】
10	(5) 認知症ケア 〔ねらい〕 認知症高齢者の特徴について理解し、支援策について考える。			
13	①認知症の原因疾患と症状を理解する。 ②認知症の利用者に対する具体的な対応を考えロールプレイングで発表する。 ※タブレットで発表を撮影する。 ③他のグループの発表後、再度自らのグループの改善点を考え、まとめる。	知 思 主	● ○ ○	【ワークシート】 【発表】 ICT活用 【振り返りシート】
14	(6) 高齢者福祉の将来～地域包括ケアシステムの実現について～ 〔ねらい〕 高齢者福祉が抱える課題について理解し、今後の高齢者福祉の発展に必要な地域包括ケアシステムの在り方を考える。			
15	①【ゲストスピーカー：生活支援コーディネーター】 地域包括ケアシステムの概要について理解する。 ②地域の現況と課題を踏まえて、今後の高齢者福祉のよりよい方向性についてグループで考え、発表する。	知 思	○ ●	【ワークシート】 【発表】
16	(7) 単元のまとめ			
	①今までの学びを振り返る。	知 主	○ ●	【小テスト】 【振り返りシート】

「知識・技術」については、教科書の内容を理解し、ワークシートに記入する場面や、福祉専門職の話から学習内容を理解し、ワークシートにまとめる場面において評価を行う。

また、定期考査を用いて「知識・技術」の評価を行う際は、事実に知識の習得を問う問題と、知識の概念的理解を問う問題とのバランスに配慮するほか、小テストは小単元ごとに実施し、事実に知識の習得を問う問題を中心に出题して生徒の学習定着度を高めるとともに、生徒の解答の傾向等を把握し授業改善につなげる。

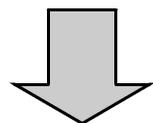
「思考・判断・表現」については、座学で身に付けた知識を活用して、社会福祉課題の解決策等に向けて自分で考えたり、他者と意見を交換したりする場面を設け、ワークシートへの記述や発表等の内容について評価する。

「主体的に学習に取り組む態度」については、単元の「振り返りシート」の記述を中心に評価を行う。自らの住む地域の社会福祉課題について考える上で感じたことや、考えたことについて「より理解を深めるために…」、「〇〇についてさらに調べ…」など、粘り強く学習に取り組もうとしている部分を読み取る。また、発表後の振り返りでは、思いどおりに進んだ場面や思いどおりにならなかった場面とその際の自身の行動について記入させ、「〇〇の場面についてもう一度考え…」、「他のグループの発表を聞いて〇〇について改善を…」といった内容から、自己調整を図っている部分を読み取り評価する。

#### (4) 評価問題等

<第13時間目の振り返りシート例>【評価の観点：主体的に学習に取り組む態度】

項目	自己評価	学習の状況・自己評価の理由・今後に生かしたいこと
①授業の目標を達成できたか		自己評価することにより、自らの学習を振り返る機会を与えると同時に、教師がコメントを書き込んだり直接指導したりすることにより、次の学習への見通しを立てさせる。
②主体的に授業に取り組むことができたか		
③他者と協力することができたか		
④計画どおりすすめることができたか		



振り返りシートを活用した評価では、振り返りシートの内容のみを捉えて評価するのではなく、授業中の行動観察などを合わせて評価する。

	評価Bの例	評価Aの例	評価Cの例
回答	認知症の原因疾患と症状についてよく理解できた。ロールプレイングではそれぞれの役割を理解し、しっかり取り組むことができた。他のグループの発表を見て認知症の方への声掛けの方法について新たな発見があったので今後活かしたい。	常同行動の対応について自分でも調べてみた。常同行動の対応には「無理に止めない」という選択肢もあると分かったので、ロールプレイングに取り入れた。私たちのグループは声掛けの「言葉」に着目して演じていたが、声を掛ける際の位置（利用者の方の正面に位置し視界に入る）を意識しているグループがあったので、今後活かしたい。	ロールプレイングでは利用者役を演じた。授業で学んだことを今後に生かしたい。
評価	学習に対して主体的に取り組み、自身の学習がよりよいものとなるよう努めている部分を見取ることができるため、「おおむね満足できる」状況（B）とする。	学習に対して粘り強く取り組んでいる態度や、自身の学習をよりよくするための手立てを具体的に見取ることができるため、「十分満足できる」状況（A）とする。	学習に対して主体的に取り組んでいる様子を見取ることができない。「今後に生かしたい」という記述はあるものの、具体的な内容を見取ることができないため、「努力を要する」状況（C）とする。

【評価Cとなった生徒へ指導】  
授業の目標を確認する。学習内容について理解が不足していた部分や思いどおりにならなかった場面、関心をもった事柄について、言葉でやりとりしながら振り返りを促す。

## 実践事例

ここでは、授業にワークショップの形式を取り入れ、課題解決能力を養うとともに、言語活動を充実させるほか、ICTを活用し、生徒が自らの考えを可視化しながら学習内容を深める事例を紹介する。

### ◆科目「介護過程」における1単位時間の指導と評価の計画

1	本時の目標 事例を基に「情報の分類と整理」について考えをまとめ、演習を通して情報を関連付けながら、自らの思いや考察したことを発表する。[評価の観点：思考・判断・表現]		
2	本時の展開		
過程	指導内容	指導上の留意点	評価規準及び評価方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標を確認する。</li> <li>・前時の振り返りをする。</li> <li>・事例を基に、「情報の分類と整理」について学習したことを結び付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の内容を提示・説明する。</li> <li>・既習内容の確認を行い、本時の学習内容に対する意識を高める。</li> <li>・ワークシートを配付し、記入内容について確認する。(※スクリーンに掲示して全体共有)</li> </ul>	
展開	<p>&lt;個人ワーク&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時のワークシートを基に発表内容について整理する。</li> </ul> <p>[ワールドカフェ]方式の活用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【進め方】</b></p> <p>①4～5名のグループに分かれ、付箋や模造紙を活用して協議する。</p> <p>②グループに残って説明するホスト、他のグループで話を聞くゲストに分かれ、グループ協議を繰り返す。</p> <p>③最初のテーブルに戻り、他のグループでの内容をゲストが報告する。</p> <p>④最後に各ホストがグループ協議の内容を全体に発表し、情報共有する。</p> </div> 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>[ワールドカフェ]方式を活用し、「情報の分類と整理」について、色々な人と情報を共有する。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを基に自分の考えを整理するとともに、自らの認識を再構成し構造化できるようにする。</li> <li>※手立てが必要な生徒には、時間をかけて丁寧に指導する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;"><b>ICTの活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットで様子を撮影し、次時の導入で活用する。</li> </ul>  <div style="background-color: cyan; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>タブレットを用いて今回の情報共有の様子を撮影しておく、どのような考えを基に話し合っていたのか、次時の振り返りに活用できる。</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ内で考えを共有することを伝え、「情報の分類と整理」について思考が広がるようにする。</li> <li>・動画をYouTubeに限定公開し、生徒が家庭学習において、自分の考えを整理する。</li> </ul>	<p><b>【評価規準】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分なりに工夫し、他者に考えを発表できているか。</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発表・グループ協議を行動観察</div> [思考・判断・表現]
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の感想と自己評価をワークシートに記入する。</li> <li>・次回の学習内容「情報の解釈、関連付け、統合化」について確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感想の内容に応じて、発表を促すとともに、「情報の分類と整理」の重要性について全体で共有する。</li> <li>・ワークシートを回収する。</li> </ul>	<p><b>【評価規準】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他者の考えに傾聴し、新たに気付いたことをまとめることができるか。</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">レポートの作成</div> [思考・判断・表現]